

久米愛 三淵嘉子・中田正子とともに、わが国初の女性弁護士になり、家庭と両立させて、女性の地位向上に尽力し続けた。

くめあい

大逆事件判決1911 = 大阪で、電力会社社長の藤原氏の娘に生まれる。

明治天皇没・1912 = 1歳：

母はごく普通の主婦であったが、のちに、慶応義塾大学でアメリカ政治史を教え、名誉教授にまでなる兄守胤がいるように、自由主義的で個人主義的に育ち、

大暴落・・・1920 = 9歳：

原敬首相暗殺 1921 = 10歳：

大阪府立夕陽丘高等女学校に学ぶうち、ハーバード大学に留学した兄の影響で、英語教師になろうと、

世界恐慌・・・1929 = 18歳：日本で初めて、女性に法律を教える明治大学専門部女子部ができた年、卒業すると、津田英学塾に進んで、英米文学を学び、のちに、その英語力が大いに役立つことになるも、

満州事変・・・1931 = 20歳：

国際連盟脱退 1933 = 22歳：卒業後、世界恐慌の影響で職が無かったため、弁護士をめざして、明治大学専門部女子部に入学し、

二二六事件・1936 = 25歳：法学部に進学。女友達と避暑で信濃追分{油屋}に泊まっていた際、同宿の東大法学部の学生グループの久米和孝と出会い、その自由主義的な生き方に共感、急速に親しくなって婚約に至るも、

日中戦争始・1937 = 26歳

総動員+健保 1938 = 27歳

卒業した和孝は、日立製作所に就職し北九州の工場に配属。結婚後も自立して生きることを表明して、結婚するも和孝は応召。在学中に、三淵嘉子・中田正子とともに、女性として初めて、高等試験司法科試験に合格し、新聞に大々的に取り上げられ、3人とも時の人となるなか、"勇士夫人"の扱い、

第二次大戦始 1939 = 28歳

大政翼賛会・1940 = 29歳

日米開戦・・・1941 = 30歳

・・・1942 = 31歳

創価学会検挙 1943 = 32歳

敗戦・・・1945 = 34歳

明治大学法学部を卒業。丸の内の{有馬忠三郎弁護士事務所}で1年半研修して、大きな影響を受け、召集解除になった和孝とようやく家庭生活。*女性弁護士第1号になった後も、引続き有馬事務所働き、長男素彦を出産するも和孝が再応召。東京地裁での刑事事件を弁護、女性として初めて法廷に立つ。ハルピンの寒さに肺炎に罹った和孝が、除隊となり、帰還、

新憲法公布・1946 = 35歳

新憲法施行・1947 = 36歳

極東裁判決 1948 = 37歳

三大事件・・・1949 = 38歳

朝鮮戦争始・1950 = 39歳

東京大空襲に先立つ政府命令で、高円寺の家が壊されることになり、2人の子を連れ、岡山県津山に疎開、和孝は東京に残り、彼の両親は四国に疎開と、家族離散、疎開先から帰ってきた直後、その間のストレスが原因だったのか、長男素彦が夭折。せっかく入居することができた親戚の豪邸も、GHQに取り上げられ、結婚当初から嫁姑の問題は全く無く、四国にいた夫の両親も呼び戻し、

独立回復・・・1951 = 40歳

メデー事件・1952 = 41歳

55年体制始・1955 = 44歳

国連加盟・・・1956 = 45歳

イスタラマ・1958 = 47歳

*民主主義を学ぼうとするGHQにより、赤松常子を団長とする女性使節団の一員として渡米、アメリカの家庭裁判所などを視察して帰国、女性の地位を上げるべく働こうとの決意は一層高まり、GHQにいたアメリカの女性弁護士の助言もあって、婦人法律家協会を設立し会長に就任、以後、生涯とめる。ちなみに、当初のメンバーは、当時、全国で法曹資格を持つ女性15人のうち、副会長になった和田(三淵)嘉子ら裁判官3人、検察官1人、愛ら弁護士2人、戦前に高等試験行政科(国家公務員試験総合職)に合格した唯一の女性渡辺美恵ほか法務省3人、法律学者2人に、アメリカの弁護士1人を加えた12人であった。高円寺に家を新築、13年に9回もの引越にも終止符、ようやく腰を落ち着けることになった。

美智子妃・・・1959 = 48歳

安保闘争・・・1960 = 49歳

全国総合計画 1962 = 51歳

TV宇宙中継始 1963 = 52歳

国際婦人法律家協会を主催して、各国の女性法律家と交流、協会がNGO国際婦人法律家協会に加盟していることから、国連NGO委員会に出席し、国連総会の、世界人権規約草案を審議する第三委員会に、政府代表の代理として出席、協会員数が100人を超える。国連総会の第三委員会に、政府代表の代理として出席、この間、日常的には、子どもたちの面倒を姑が見ていたとはいえ、自らも、忙しい合間をぬって、子育てにも心を注ぎ、料理やケーキもつくるほどで、成長していく子供たちから、尊敬されるほどであった。

大学紛争始・1965 = 54歳

いざなぎ景気 1966 = 55歳

美濃部都知事 1967 = 56歳

霞ヶ関ビル・1968 = 57歳

全共闘一カ・1969 = 58歳

大阪万博・・・1970 = 59歳

石油ショック 1973 = 62歳

角栄金脈辞任 1974 = 63歳

クアンパル事件 1975 = 64歳

田中角栄逮捕 1976 = 65歳

再び、国連総会の第三委員会に、政府代表の代理として出席、国連総会の第三委員会で、宗教への不寛容をなくすための条約について審議、世界人権年の一環として、イラン・テヘランで開かれた国際人権会議に日本代表として参加、国連総会に日本政府代表として出席するに至るも決しておごらず、誰からも慕われ、脳血栓で倒れて一時入院。*最高裁判所の女性裁判官否定発言に、婦人法律家協会会長として猛抗議。協会員数は370人になった。*国際婦人年民間団体主催の婦人会議や国際婦人年日本大会の副委員長として活躍し、*日弁連から、日本初の最高裁女性判事に推薦されたが、婦人法律家協会会長のまま、膵臓癌で没した。婦人運動のリーダーとしても婦選会館理事となって協力したほか、津田塾大学理事・明治大学短期大学部教授・中央労働基準審議会公益委員などを歴任している。